

入学者選抜日程の概要

★ 出願期間を含む入学者選抜の詳細情報については、
「[2024年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生募集要項](#)」(2023年6月下旬発表予定)で必ず確認してください。

教育学研究科 専門職学位課程【教職大学院】				
期別	入試区分	入学定員	募集人員	試験日
第1期	・推薦入試 ・現職教員入試(自己推薦型) ・一般入試	45人	30人程度	2023年9月23日(土)
第2期	・一般入試 ・現職教員入試		15人程度	2024年2月3日(土)
第3期	・一般入試 ・現職教員入試		若干人	2024年3月2日(土)

教育学研究科 修士課程				
期別	入試区分	入学定員	募集人員	試験日
第1期	・推薦入試 ・一般入試 ・外国人留学生入試	37人	25人程度	2023年9月23日(土)
第2期	・一般入試 ・外国人留学生入試		12人程度	2024年2月3日(土)

◆ アクセス

◆ JR

- 岡山駅乗り換え、津山線「法界院」駅下車、徒歩10分

◆ バス(岡電バス)

- 岡山駅運動公園口(駅西口)から岡山バス(岡山理科大学)行に乗り、岡大西門下車
 - 岡山駅後楽園口(駅東口)から岡山バス(御野駅前・妙善寺)行又は(榊原病院前・妙善寺)行に乗り、岡大東門下車
- ※ 本路線は市内を廻るため時間がかかります。

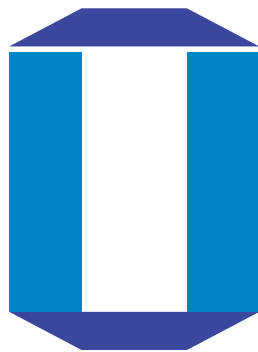


岡山大学

大学院教育学研究科

OKAYAMA UNIVERSITY
Graduate School of Education

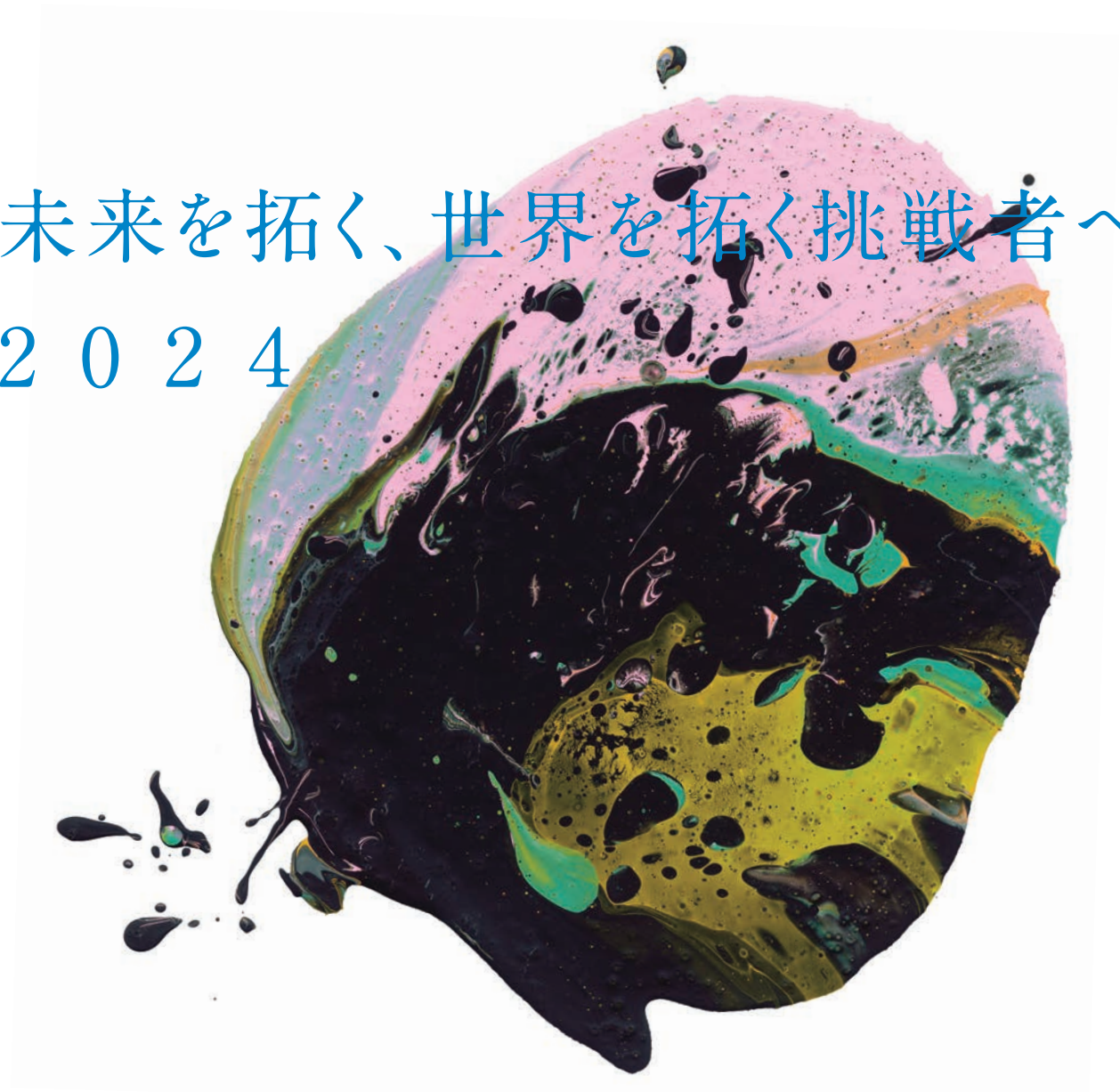
- 専門職学位課程【教職大学院】(1専攻)
 - ・教職実践専攻
- 修士課程(1専攻)
 - ・教育科学専攻



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く

未来を拓く、世界を拓く挑戦者へ！ 2024



表紙絵／荻野鈴果



学 章

岡山大学大学院 教育学研究科

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1番1号
お問合せ窓口：岡山大学教育学系教務学生グループ
Tel.086-252-1111 (代表) ※内線：7604、7605

編 集：岡山大学大学院 教育学研究科・企画広報委員会

https://edu.okayama-u.ac.jp/graduate_school/



岡山大学大学院教育学研究科

検索

2024年度 大学院案内

目次
contents

● ごあいさつ ②

● 岡山大学大学院教育学研究科について ③ ～ ④

1. 教育学研究科の構成と学生定員 ③

2. 教育学研究科の目的、2課程のアドミッション・ポリシーと基本的目標 ④

● 専門職学位課程【教職大学院】の概要 ⑤ ～ ⑬

1. 教職大学院が目指すこと ⑤

2. 養成しようとする教員像 ⑤

3. 課程修了要件とその内訳 ⑤

4. 「教育職員免許状」の取得について ⑤

5. カリキュラムの特色と構成 ⑥

6. 教職大学院の授業科目 ⑦ ～ ⑧

7. 教職大学院で過ごす2年間 ⑨ ～ ⑪

8. 教員紹介 ⑫

9. 最終成果報告書の研究テーマ例 ⑫

10. 教職大学院進学の特長 ⑬

11. 修了生の進路状況 ⑬

● 修士課程 教育科学専攻 ⑭

・ 「教育の力」とは何だろう ⑭

● 修士課程 教育科学専攻の概要 ⑮ ～ ⑳

1. 教育上の理念、目的 ⑮

2. 養成する人材像と課題解決の資質能力 ⑮

3. 修了要件とその内訳 ⑮

4. 「教育職員免許状」の取得について ⑮

5. 教育課程及び、カリキュラムの特色と構成 ⑯

6. PBLとカリキュラム及び、その流れについて ⑰ ～ ⑱

7. 2023年度在校生へのインタビュー & 修了生の声 ⑲ ～ ㉑

8. 2022年度／PBLチームによるプロジェクト内容 ㉑

9. 2022年度 修士論文 ㉑

10. 修了生の主な進路先 ㉒

11. 修士課程 教育科学専攻への要望、期待 ㉒

● 入学者選抜日程の概要 裏表紙



大学院教育学研究科長
高瀬 淳

ごあいさつ

岡山大学大学院教育学研究科は、教育の営みを総合的に学修・研究することにより、多様な価値をもった個人や集団・社会が自らの幸福を追求していくこと(well-being)に貢献する大学院です。すべての人々が自らの幸福を追求するためには、身体的、精神的、そして社会的にも「満たされた状態」であることが必要であり、なにかが達成されたという一時的な状況・感情に留まらず、自己実現や社会改善に持続的に取り組んでいける状態をつくり出していかなければなりません。社会が急速に変化し、複雑化を増していく中で、そうした「満たされた状態」をつくり出していくための条件の一つが、教育であるといえます。

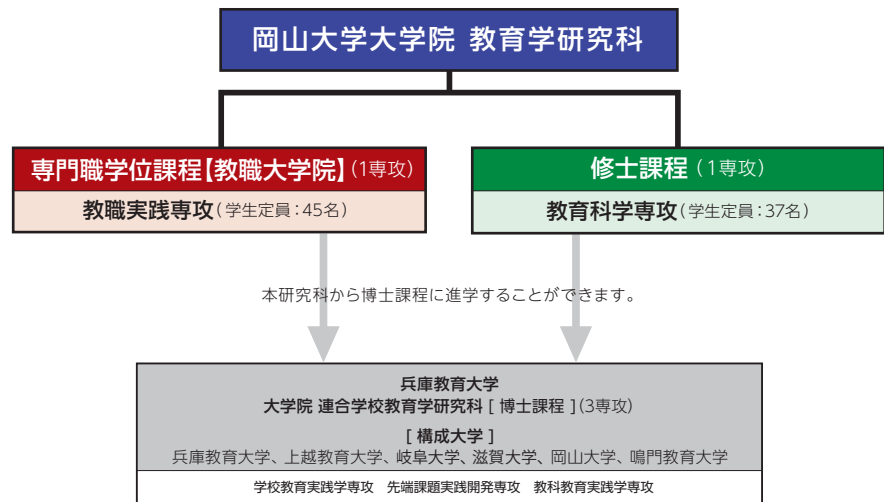
教育学研究科は、教職実践専攻(専門職学位課程)と教育科学専攻(修士課程)から構成されています。

教職実践専攻は、高度専門職業人としての教員を養成する教職大学院であり、平成20年度の設置以降、よりよい学校教育の実現に向けた持続的な取組のリーダーを輩出しています。教員の仕事は、子供や授業・学校等に関する専門的な知識や経験を習得して、それを実践に適用すればよいものではありません。絶えず変化する子供や学校の実態を把握しながら、意味のある課題設定し、その解決に向けた教育実践を行う。さらに、同僚等とともに自分や他者の教育実践をデータや事象から一般化・理論化し、授業や指導の継続的な改善・変革につなげていくことが求められます。そのため、教職実践専攻では、研究的な視座から、よりよい教育実践に持続的に取り組む「アクションリサーチャー」としての教員の資質・能力を身につけることが目指されています。

教育科学専攻は、教育を開拓的に広く捉え、教育の可能性を拡げることを追究する大学院であり、様々な教育課題に対応できる課題解決能力をもった実践人を育成しています。教育は、公の性質を有する学校だけでなく、子供たちの健やかな育ちの基盤である家庭や人々の生活実態に即して構成される社会においても行われるものです。教育の営みは、家庭、学校及び社会といったあらゆる場所において、あらゆる機会に行われることができればなりません。すべての人々が、従来からの専門領域・分野の枠を越えた知識や経験を相互に関連づけながら、実践的に思考・活用することを通じて、その成果を持続的に社会へ還元していくことが求められます。そのため、教育科学専攻では、個人や社会を取り巻く諸環境を理論的・実践的に分析し、そこに内在する本質的な教育課題を解決していく資質・能力を身につけることが目指されています。

岡山大学大学院教育学研究科において、教育をテーマに一緒に学ぶことができるのを楽しみにしています。

1. 岡山大学大学院教育学研究科の構成と学生定員



2. 岡山大学大学院教育学研究科の目的、2課程のアドミッション・ポリシーと教育の基本的目標

岡山大学大学院 教育学研究科

教育学研究科は、教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探究することにより、学校リーダーおよび国際社会や地域社会に貢献できる高度な教育的実践力をもつ人材の育成を目的としています

専門職学位課程【教職大学院】
教職実践専攻 (学生定員: 45名)

修士課程
教育科学専攻 (学生定員: 37名)

教育の「未来」を拓く

〈アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）〉
専門職学位課程(教職大学院)は、学校教育に携わることへの強い使命感と熱意があり、学校教育の現状について幅広い関心を持つ人、学校教育の課題の解決に意欲を持ち、高度な教育実践力の獲得・向上を目指す人、また学校づくりの有力な一員になろうとしている人や地域・学校において指導的役割を果たすことを目指している現職教員を求めています。

〈教育の基本的目標〉
教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探究することにより、学校リーダーおよび地域社会に貢献できる高度な教育的実践力を涵養するとともに、学生同士や教職員および学校・地域との連携・協働による対話や議論を通じて、個々人が豊かな教育者としての醸成ができるよう支援し、指導的役割を果たす能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

〈特色〉
★ 10教科全ての専任教員を配置し、教科の専門的授業力育成機能をパワーアップ
★ 教育委員会・学校現場との強い連携
★ 岡山大学独自の実践力向上カリキュラム
★ 採用試験受験者への優遇措置
全国の県市が、採用候補者名簿登載期間の延長(岡山県・岡山市の場合は2年間延長)や次年度以降の一部試験免除・特別の選考など、特例的な措置を講じています。

よりよい教育実践に持続的に取り組む
アクション・リサーチャーとしての教師

全教科・全学校種における中核的教員

教育で「世界」を拓く

〈アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）〉
修士課程は、教育を通じて国際社会や地域社会の諸課題の解決に挑む実践力と、課題を見出し設定する探究力、他者を支援し仲間と協働するコミュニケーション力があり、さらに教育の可能性を広く深く追求するため、自らの専門領域はもちろん、関連する諸科学領域への興味・関心をもち創造的に深めようと努力している人を求めています。

〈教育の基本的目標〉
教育の可能性を拡げることを追及します。学校・家庭・地域・職場等、人間が生活するあらゆる場における教育を対象とした諸科学を探究することにより、学校リーダーおよび国際社会や地域社会に貢献できる高度な教育実践力を涵養するとともに、学生同士や教職員および学校・地域との連携・協働による対話や議論を通じて、個々人がやわらかな発想力と創造力を備えた実践者としての醸成ができるよう支援し、指導的役割を果たす能力と人格を備えた創造的实践人の育成を目的とした教育を行います。

〈特色〉
★ 教育の可能性を追及する多種多様な教育科学のプロジェクトへの参画
PBL (Project-Based Learning) での課題解決型学習
★ 教育に関する事象を開拓的に広く捉え、視野を広げ学修・研究のできるカリキュラム
★ 留学生受け入れ、IB教育、国際教育を推進

国際的に活躍するために
教育専門力を活かす先駆者

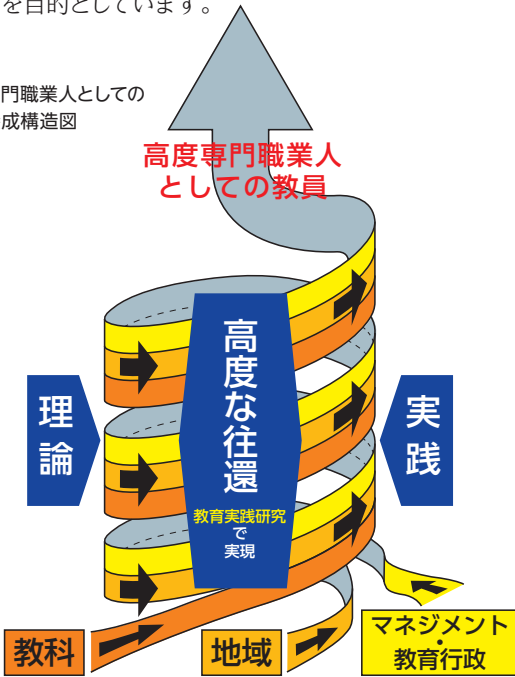
企業、公務員、学校教員、大学教員、研究者、学校事務職員、社会教育関連業種、JICA・NGO職員、起業など新たな事業



1. 岡山大学教職大学院が目指すこと

本教職大学院は、学校教育に関する理論と実践を教授研究し、教育現場の課題について、理論との架橋・往還・融合を通して高度にマネジメントし遂行できる総合的・実践的な力量(高度教育実践力)を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目的としています。

■ 高度専門職業人としての
教員養成構造図



2. 養成しようとする教員像

本教職大学院が養成する人材像は、「アクション・リサーチャーとしての教師」であり、教職生活全体を通じて継続的に高められていく職能発達方向性を踏まえたものです。

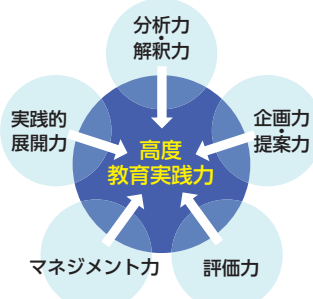
- 学段階で教員としての基礎的・基本的な資質能力を修得した者が、さらに学習指導や学級経営、生徒指導などに関する高度で実践的な能力を身につけ、新しい授業を構想・展開し、提案することができる「初任期リーダー」として学校改善に資すること。
- 現場での一定の教職経験を有する現職教員が、若手教員を育成する能力、及び学年や学校・地域において学習指導や、学級経営・学年経営、生徒指導などに関する指導的役割を果たす能力を身につけ、「ミドルリーダー」として地域や学校改善に資すること。
- 現場での一定の教職経験を有する現職教員が、高い視座から、さまざまな教育事象を捉え直し、「学校リーダー」として指導的立場に立ち、新たな学校づくりや地域づくりに資すること。

◆ いま求められる資質・能力

職能発達の違いはありますが、「初任期リーダー」、「ミドルリーダー」、「学校リーダー」に求められる基礎・基本、資質・能力としては、以下のものを構想し、育成することを目指しています。

- ① **分析力・解釈力**：理論と実践との架橋・往還によって問題の解決の方向を見通すことのできる力
- ② **企画力・提案力**：具体的で高度な問題解決を企画し、提案することができる力
- ③ **実践的展開力**：企画・提案した問題解決策を実践できる高度な力
- ④ **評価力**：教育活動・実践を客観的に評価したり反省的に思考するなどの力
- ⑤ **マネジメント力**：教育活動や取り組みを学校内外で組織的・協働的に展開できる力

■ 高度教育実践力に求められる
資質・能力



3. 課程修了要件とその内訳

教職大学院の修了要件単位総数は46単位です。

共通科目	選択科目	学校における 実習	単位総数
26単位	10単位	10単位	46単位

注1) 共通科目と選択科目には、教科教育領域の単位がそれぞれ2単位含まれており、主免の授業力向上をめざします。

注2) 現職教員選抜を受験し、「学校における実習科目」の免除を申請する場合は、入学時審査により一部免除されることがあります。

- ◎ 標準修業年限は2年とし、最長在学年限は4年とします。
- ◎ 履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて、14条適用、長期履修制度等、柔軟な対応を取ります。

4. 「教育職員免許状」の取得について

- ◎ 「1種免許状」を取得している場合は所定の単位を取得し、課程を修了すると「専修免許状」を取得できます。ただし、「特別支援学校教諭専修免許状」は、取得できません。基礎免許のみ専修免許状を取得できます。

5. カリキュラムの特色と構成

専門職学位課程では、理論と実践の高度な架橋・往還・融合を通じて、教職生活全体を通じて継続的に職能発達する高度専門職業人としての教員の育成を目指しています。アクション・リサーチャーとしての教師に求められる教育実践を学ぶことができるよう学校現場や教育行政との密接な連携のもと、デマンドサイドのニーズに立脚し、研究成果を学校現場に直接還元できる特色あるカリキュラムを編成しています。

◆ 岡山大学教職大学院の学びの特色

① 共に学び、共に高める

特徴の1つとして、コース制を採用するのはなく、職能発達段階の異なる学部新卒院生と現職教員院生とが同じ授業を履修し、「共に学ぶ」ということがあります。

校種や教科、これまでの経験を異にする学部新卒院生や現職教員院生が「共に学ぶ」ことで、1つの教育事象をさまざまな視点から交流し、異なる見方や考え方を共有しながら、課題の解決に向け展開されている実践に参画していくための資質や能力を、「共に高める」ことに寄与しています。こうして築いた学び合う関係性は、修了後の教職キャリアを支える貴重な人的ネットワークになっていきます。

② 学校の教育活動を一体的に捉える

学校の教育実践は、その学校の児童・生徒の実態をもとに、子供達をどのように育てたいのかという方向性、学校の教育目標を見据えて行われます。“その学校の児童・生徒にとって”意味のある教育実践を創り出していく必要があるのです。そこで、自分の専門教科に対する理解、指導力の拡充・深化だけではなく、他教科等を理解したり、学校全体の動きを見取れる視野を養うことで、学校の教育活動を一体的・総合的にとらえ、リーダーとしての高度実践的指導力を養います。

③ 教育実践のプロフェッショナルとして、自らの実践の基盤となる理論(実践知)を構築する

学校現場で経験年数を積み、それに比例して、教師として指導力も自動的に積みあがっていくのでしょうか？

教職大学院での学びは、教育現場に向き合いながら課題を発見し、課題解決に向けて理論的な裏付けをもった実践をおこない、その経験を省察するという探究プロセスを通して、自分なりの実践理論を構築していくことを大切にしています。いわば、単なる経験主義から脱却し、「経験から学ぶ力」の育成を図り今後の教職人生を通じて「学び続ける教師」の根幹を育みます。これは新卒院生でも現職院生でも共通して必要な力です。

④ 充実した専任教員と支援体制

全10教科と、特別支援教育、養護教育、教育行政・マネジメントと併せて、専門領域を深めるための科目群および指導体制を充実させています。

研究者教員、実務家教員によるオムニバス形式やチームティーチングの授業、複数教員によるゼミ指導、さらには、実習校や現任校、教育委員会、メンター等と協働した指導体制を取り入れることにより、本質的かつ多面的・多角的な学びを支援します。

◆ カリキュラムの構成

教職大学院では、「共通科目」・「選択科目」・「学校における実習」を開設しています。すべての学生が履修する「共通科目」では、今日的教育課題や教育事象について仕組みや成り立ちを学び、「選択科目」では、キャリア段階に応じた職能発達を促し、なおかつ学校現場の今日的課題に対応できる実践的理論を修得します。そして「学校における実習」において教育現場の課題に向き合い、職能成長の段階等に応じて、課題の発見→解決→探究、問題の分析→解決策の提案といった取り組みを「教育実践研究」で段階的に学修できるように、カリキュラムを構成しています。

6. 教職大学院の授業科目

◆ 授業科目一覧

科目区分	授 業 科 目 名	単位	必修
共通科目	教育課程編成の実践と課題 A,B	各 1	必修
	特色あるカリキュラムの開発 A,B	各 1	必修
	教材開発と授業デザイン A,B	各 1	必修
	授業の指導計画と学習開発 A,B	各 1	必修
	生活指導と 学校カウンセリングの実践と課題 A,B	各 1	必修
	特別支援教育の実践と課題 A,B	各 1	必修
	学級・学年・学校経営の実践と課題 A,B	各 1	必修
	学校保健・学校安全とリスクマネジメントA,B	各 1	必修
	学校教育の役割と教員の職能開発 A,B	各 1	必修
	学校とコミュニティ A,B	各 1	必修
	教科・領域を横断した学びのデザイン (ESD)	2	必修
	教育実践研究の方法Ⅰ A,Ⅰ B	各 1	必修
	教育実践研究の方法Ⅱ A(カリキュラム),Ⅱ B	各 1	2 単位 選択必修
	教育実践研究の方法Ⅱ A(マネジメント),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(地域協働),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(特別支援教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(養護教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(国語教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(社会科教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(数学教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(理科教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(音楽教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(美術教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(保健体育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(技術教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(家庭科教育),Ⅱ B	各 1	
	教育実践研究の方法Ⅱ A(英語教育),Ⅱ B	各 1	

科目区分	授 業 科 目 名	単位	必修
選択科目	授業アセスメント技術とその応用 A,B	各 1	
	指導と評価の理論と実践 A,B	各 1	
	学習指導の実践と課題 A,B	各 1	
	教科のデザインと実践Ⅰ(国語教育)	1	2 単位 選択必修
	教科のデザインと実践Ⅰ(社会科教育)	1	
	教科のデザインと実践Ⅱ(数学教育)	1	
	教科のデザインと実践Ⅱ(理科教育)	1	
	教科のデザインと実践Ⅰ(音楽教育)	1	
	教科のデザインと実践Ⅰ(美術教育)	1	
	教科のデザインと実践Ⅱ(保健体育)	1	
	教科のデザインと実践Ⅱ(技術教育)	1	
	教科のデザインと実践Ⅱ(家庭科教育)	1	
	教科のデザインと実践Ⅰ(英語教育)	1	
	学校保健のデザインと実践	1	
	特別支援教育のデザインと実践	1	
	道徳科の理論と実践 A,B	各 1	
	子ども分析と学級経営 A,B	各 1	
	生徒指導と発達支援教育 A,B	各 1	
	通常学級・特別支援学級の授業づくり・学級づくり A,B	各 1	
	特別支援教育コーディネーター実践論 A,B	各 1	
	スクールリーダーと組織開発 A,B	各 1	
	学校経営戦略と評価 A,B	各 1	
	校内研修のマネジメントとコンサルテーション A,B	各 1	
	教師の職能成長とコーチング A,B	各 1	
	教育法規の理論と実務演習 A,B	各 1	
	アクティブラーニングの理論と実践	1	
	学校における ICT 活用	1	
	CST としての実践	1	
	小学校英語の理論と実践 A,B	各 1	
	教育実践演習 A	6	
	教育実践演習 B	4	
	教育実践演習 C	4	
	教育実践演習 D	2	

◆ 新卒院生対象の授業科目一覧

科目区分	授 業 科 目 名	単位	
選択科目	教育実践研究Ⅰ(課題発見)	2	1 年次必修
	教育実践研究Ⅱ(課題解決)	2	1 年次必修
	教育実践特別研究(課題探究)カリキュラム	4	2 年次 4 単位 選択必修
	教育実践特別研究(課題探究)マネジメント	4	
	教育実践特別研究(課題探究)地域協働	4	
	教育実践特別研究(課題探究)特別支援教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)養護教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)国語教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)社会科教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)数学教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)理科教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)音楽教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)美術教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)保健体育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)技術教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)家庭科教育	4	
	教育実践特別研究(課題探究)英語教育	4	
学校における実習	課題発見実習	3	1 年次必修
	課題解決実習	3	1 年次必修
	課題探究実習	4	1 年次必修
	教育実践特別実習 A	4	
	教育実践特別実習 B	4	
	教育実践特別実習 C	2	
	教育実践特別実習 D	2	

◆ 岡山大学教職大学院ラーニングポイント制

岡山大学教職大学院では、現職教員を対象とする研修講座やセミナー等での学修を教職大学院の授業科目の履修とみなして単位を付与する制度を設けています。これにより、教職大学院の1年履修も可能となります。

◆ 現職院生対象の授業科目一覧

科目区分	授 業 科 目 名	単位	
選択科目	教育実践研究Ⅰ(課題分析)	2	1 年次必修
	教育実践研究Ⅱ(課題提案)	2	1 年次必修
	教育実践特別研究(課題検証)カリキュラム	4	2 年次 4 単位 選択必修
	教育実践特別研究(課題検証)マネジメント	4	
	教育実践特別研究(課題検証)地域協働	4	
	教育実践特別研究(課題検証)特別支援教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)養護教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)国語教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)社会科教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)数学教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)理科教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)音楽教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)美術教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)保健体育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)技術教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)家庭科教育	4	
	教育実践特別研究(課題検証)英語教育	4	
学校における実習	課題分析実習	4	1 年次必修
	課題検証実習	6	2 年次必修
	教育実践特別実習 A	4	
	教育実践特別実習 B	4	
	教育実践特別実習 C	2	
	教育実践特別実習 D	2	

MESSAGE

◆ 在校生に聞きました！—— 難波 優太郎（小学校・国語、岡山大学教育学部出身）

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 入学当初は、子ども達にとって楽しい授業がしたいと考えていました。しかし、講義やゼミ、実習を通じて、楽しいだけでは駄目で、どんな子どもを育てたいのかを観点として、授業を構成すること、そして、授業が教科の資質能力の育成と学校が目指す子ども像を実現する取り組みにならないといけないことに気づきました。そのためには、理論と実践を往還し、授業を開発していくことが必要だと学びました。

Q. 入学を検討している方へのメッセージをお願いします。

A. 教職実践専攻では、教育に関する理論はもちろん、授業の中で目指す子ども像を実現していく具体的なプロセスを学ぶことができます。理論と実践を往還し、目の前の子供達にとって意味ある授業を開発していくことは、教職実践専攻だからこそ学べることです。また、学部とは異なり他教科や他校種、現職の先生方と交流でき、多様な価値観や考えに触れ、自らの教育観等を捉え直し、更新することもできます。



㉑：教職大学院のある教育学部の遠景 ㉒～㉔：教職大学院の院生室

教職大学院の院生室は全部で6ヶ所あり、1年生と2年生の交流や新卒院生と現職院生の交流が深まるように院生室の使用方法が工夫されています。

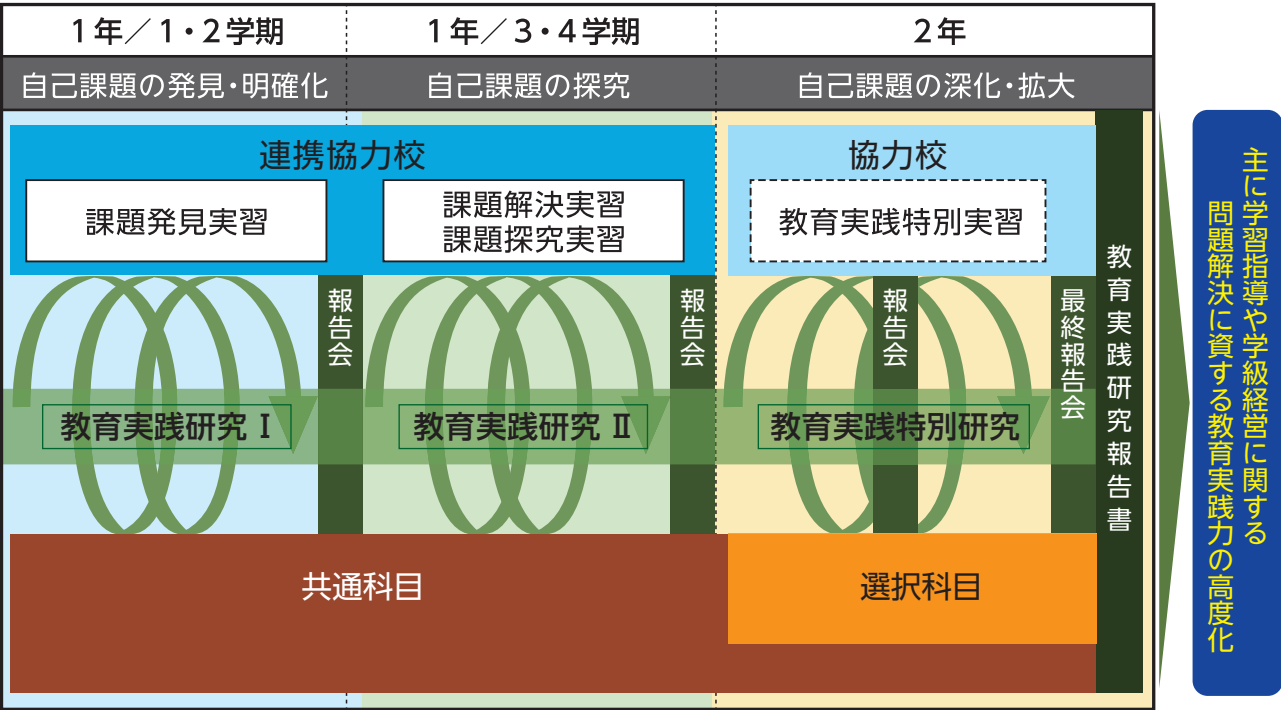
7. 教職大学院で過ごす2年間

●学部新卒学生の学び

「初任期リーダー」として高度な授業力の育成を目指す

学部新卒院生は、学習指導や生徒指導などに関わる自己課題を発見・分析した上で、その解決に向けての実践研究を深めます。したがって、選択科目は、教育課程・授業力育成に関する科目群の科目を中心に履修します。

●学部新卒学生「初任期リーダー」のコースワーク



◆ 在校生に聞きました！ ――― 後尾 結女（養護教諭、他大学家政学部出身）

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 俯瞰的に学校全体を見ることができるようになりました。学部時代は「養護教諭の視点」で学校教育を考えていました。しかし、講義等で他の校種の仲間や現職の先生、大学院の先生との関わりを通し、他教科や学校全体、地域のことを考えながら課題に取り組むようになりました。実習では、どのような生徒を育てたいか、そのためにどのような授業・実践ができるかということを考え、生徒の実態や教育目標などを踏まえながら構成を柔軟に考える力がつきました。

Q. 入学を検討している方へのメッセージをお願いします。

A. 教職大学院では、専門教科はもちろん、他教科、他校種の仲間や現職の先生とともに学ぶことができることが1番の魅力です。講義や院生室での交流を通して、考え方の視野が広がり、新たな価値観に必ず気づくことができます。「学校における実習」では、課題を持ち、何度も考察を重ねて解決に向けた実践を行います。教員として高度な実践力が身につくので、きっと将来に役立つと思います。

●現職教員学生の学び

これからの未来を見据えた学校づくりを牽引する「学校リーダー」

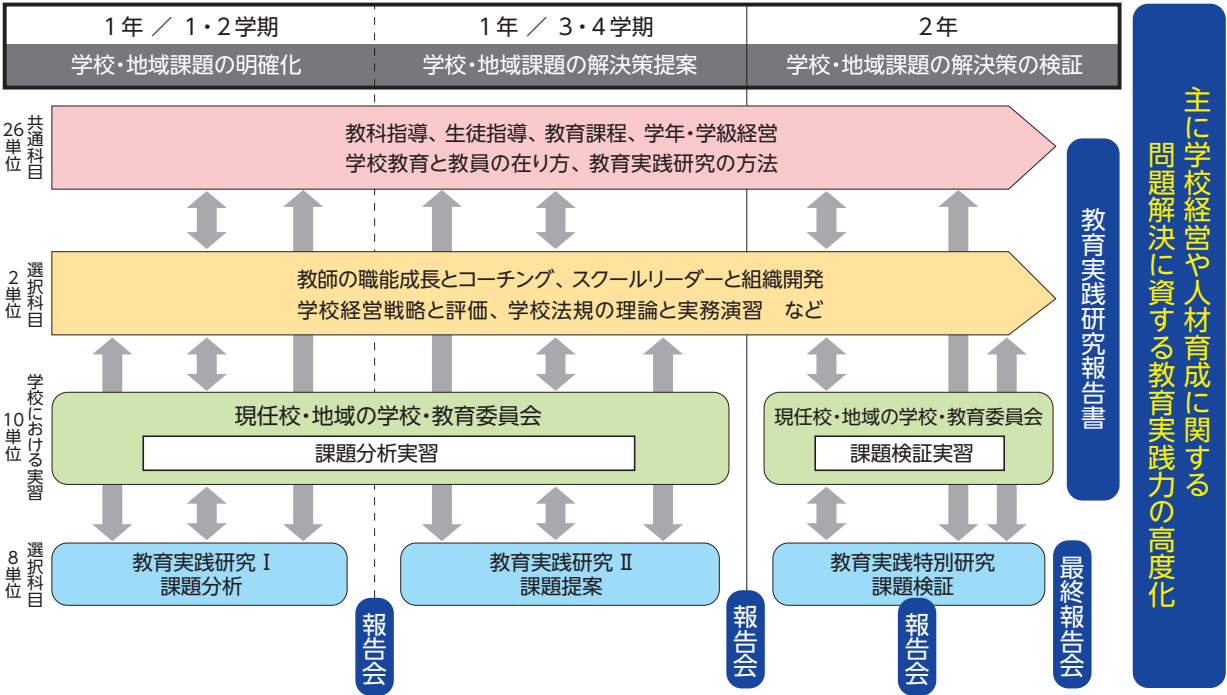
教職員集団をリードし学校改革を推進する「ミドルリーダー」を目指して

教職大学院では、学校現場の日常から少し離れた俯瞰的な視点に立ち、現任校や地域全体の教育改革という視座から、改めて学校・地域の課題を掘り起こして精選・分析し、その解決に向けて、学校や地域全体を巻き込んで実践研究を行います。

そのためには、「学校リーダー」として、戦略的なビジョンの創造・共有を舵取りし、質の高い教育の開発に向けて学習コミュニティを構築し、学校改革や地域教育の改革を推進する力も必要です。また、「ミドルリーダー」として、教科教育の指導力向上は勿論のこと、学校全体の動きを視野に入れ、教職員や保護者、地域等との協働を促すファシリテーターやコーディネーターとしての力も必要です。

そこで、選択科目では、「学校リーダー」は「学校経営戦略と評価」「教育法規の理論と実務演習」などを中心に、「ミドルリーダー」は教科経営や教師の職能成長、校内研修のマネジメントなどに関わる科目を中心に学修していきます。

●現職教員学生「学校リーダー」のコースワーク



「学校経営戦略と評価」：学生の体験記

「学校経営に関する知識が着実に身につき、この授業を通して『学校』そのものに対するとらえ方が変わりました。例えば、SWOT分析による学校の強み・弱みの探究、カリキュラムマネジメントに基づく学校のグランドデザインの設計など、学校全体の改善を目指す上で必要不可欠な視点を得ることができたと、思います。」

「授業デザインと評価」：学生の体験記

「学部新卒と現職、異教科・異校種の院生がグループを組み、模擬授業を作成する授業でした。こうした混成のグループで課題を達成できるのか最初は不安でしたが、学校教育目標や研究テーマを軸として定めることで、共通の視点に立った議論ができました。各自の専門性を活かして、よりよい授業をつくりあげる、貴重な経験をすることができました。」

「教育実践研究」：学生の体験記

「学部卒院生と一緒に、研究に関する議論や実践の省察を行っています。院生各自のテーマや対象・領域は様々ですが、研究のアプローチや方法論、内容の核心的な部分での共通性を見出せることがあり、そこから新たな知識や気づきが得られるため、とても刺激的で面白いなと感じています。」

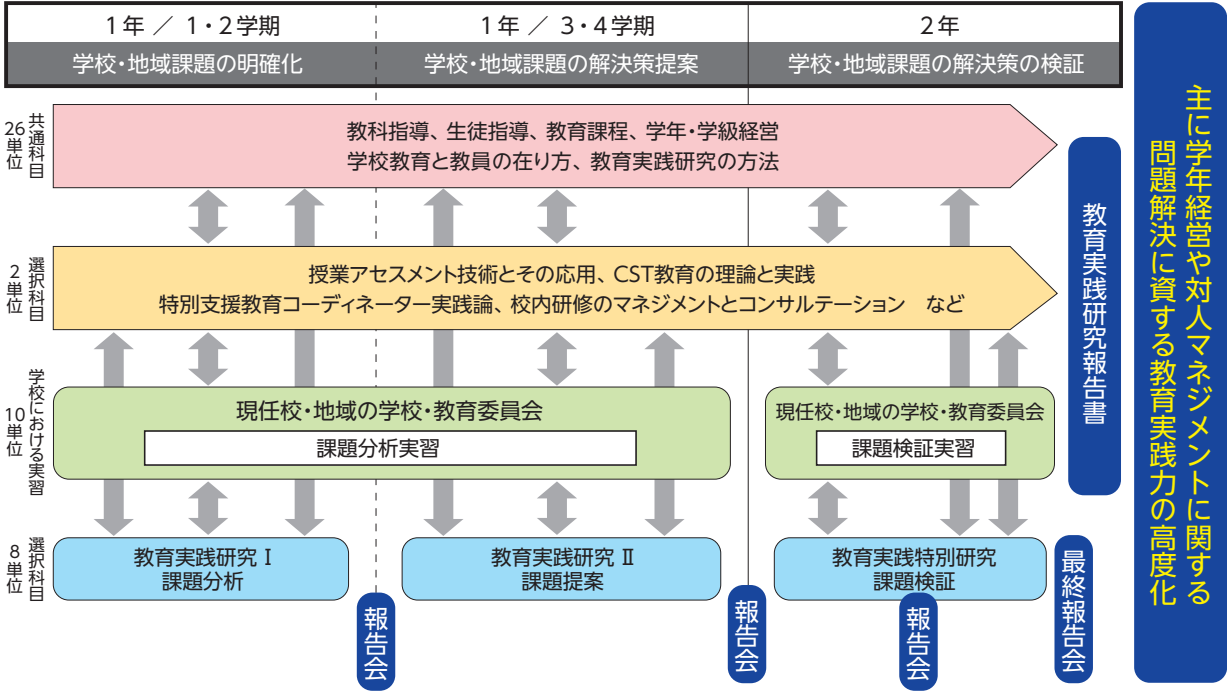
「国語に関しては、講義を聴き自分が思っていたことを、ゼミで『国語の視点で捉えるところということかな』と自分で言語化して先生にみて頂いたりする中で教科の理解が深まったところがあると思います。」

実習：学生の体験記

「国語科でアクティブラーニングを行うための示唆を得るため、教育関係機関で開催される講座の見学・聴講や、指導主事へのインタビューを行いました。現任校では、先生方と一緒に授業づくりや、研修会を担当しました。多くの方から支援と示唆をいただき、研究テーマと課題に取り組んでいます。」

「違う学年、教科、分掌のこと等、狭い視点で判断し切り捨てていたことが多かった自分に気づき、実習では先生方と話をしたり、色々なことを関連付けて捉えてみようということを意識してやっています。」

● 現職教員学生「ミドルリーダー」のコースワーク



M E S S A G E

◆ 修了生に聞きました！ —— 柴原 裕（勝央町立勝央中学校）※令和4年度時点

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 様々な立場の方との交流から、「当たり前」に対してその前提となる価値観・教育観が問い直される経験がたくさんできました。その結果、個々の学校課題を別々のものとして捉えるのではなく、システム全体で捉え、より本質的な問題にアプローチしていく視点や姿勢が身についたと思います。

Q. 入学を検討している方へのメッセージをお願いします。

A. 異校種の現職教員、新卒学生、大学の先生等、様々な立場の方と出会えることが最大のメリットだと思います。また、仲間と協働で課題を見出し、解決にむけてのアプローチを考えていくプロセスは学校現場でも必要とされていることで、教師としての学び方を学べる場所だと思います。

8. 教員紹介

教授	岡崎 正和 川田 力 熊谷 慎之輔 齊藤 武 スコット ガードナー 高瀬 淳 藤井 浩樹 前田 潔 松枝 睦美 松田 聡 三村 由香里 宮崎 善郎 山田 秀和	算数・数学教育学 人文地理学・地理教育・ESD 生涯学習・社会教育 作曲・指導法 英語コミュニケーション 教育行政学 理科教育学 学校経営 学校保健医科学 日本古典文学・国語教育 学校保健医科学 特別支援教育・視覚障害教育 社会科教育学
	教授(特任) 赤木 恭吾 井山 房子 河本 昭政 佐堂 典子 高塚 成信 竹本 俊哉 内藤 憲二	学校経営・教育行政 幼児教育 美術教育・絵画 学校経営・教師教育 英語科教育 特別支援教育の教育実践 技術教育・情報教育
准教授	岡田 正和 小田 哲也 金川 舞貴子 川崎 弘作 ショウナ キャロル 高岡 敦史 服部 裕一郎 三沢 良 宮本 浩治 棟方 百熊	教職員研修・生徒指導・教育法規 生徒指導・学校教育相談 教育経営学 理科教育学・教科教育学 英語科教育 体育・スポーツ経営学 算数・数学教育学 社会心理学・組織心理学 教育実践・教育方法・国語教育 養護実践学・健康教育
	講師 池田 匡史 石橋 一昂 伊住 継行 宮本 勇一	国語教育 算数・数学教育学 教育相談・生徒指導・道徳教育 カリキュラム・教育方法
助教	詫間 千晴	家庭科教育学

9. 最終成果報告書の研究テーマ例

● 学部新卒学生

教科教育領域を中心にして、生徒指導や学級経営、特別支援教育など幅広いテーマを追求し、教育の専門家としての知恵を深めます。

- ・体育学習を活性化させる環境デザインの研究 ―音楽を題材として―
- ・自尊感情を高める算数の授業づくり ―自己肯定感、自己有用感を育み自尊感情を高める―
- ・養護教諭が行うストレスマネジメント教育の実践 ―高等学校における授業実践と個別指導を通して―
- ・国語科における読解力向上を図るための授業構想 ―ICT導入による教育効果を視野に入れて―
- ・小学校社会科における社会認識の形成を保障する学習指導 ―形成的アセスメントを重視した授業づくり―
- ・新学習指導要領の課題を踏まえた国語科実践のあり方
- ・小学校理科における省エネルギーの授業実践 ―第6学年の単元「電気の利用」において―
- ・構成に着目した創作分野の実践的研究 ―高等学校芸術科音楽における旋律の創作から―
- ・幼児の意欲を引き出す幼児教育 ―基本的な生活習慣の形成に着目して―
- ・「学習の足場」としての「めあて」に関する研究 ―「言語活動の充実」を通じた資質・能力の育成―
- ・小学校外国語科における言語意識活動に関する研究 ―「見方・考え方」を働かせた資質・能力の育成に向けて―
- ・通常の学級における特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの検討 ―算数科の実践を通して―
- ・数学的リテラシーの涵養を目指した教授・学習に関する研究
- ・養護教諭が実施する生徒が継続して取り組める保健教育の実践 ―行動変容の手法を用いて―
- ・自己決定を促す高校世界史の授業構成 ―シミュレーション的活動を基盤にした実践を通して―
- ・学び合う学級の構築 ―対話を通して自己有用感を高める授業の在り方―
- ・中学校家庭科におけるPBISの基盤としての生徒指導の3機能を活かした授業づくり ―不登校の未然防止の視点から―
- ・図画工作科における絵画指導の授業デザイン ―表現活動においての動機づけの工夫―
- ・養護教諭による不登校防止支援の検討 ―養護教諭のコーディネーター的役割に着目して―

● 現職教員学生

小・中・高校、特別支援学校、また、教諭や養護教諭、管理職など、学校現場のさまざまな立場に立つ者が、学校の組織づくりやマネジメントを中心にして、学校づくりの基礎・基本と実践を軸にした省察を行いつつ、新しい基礎理論の構築を目指します。

- ・「学習する組織」の再構築による学校改善への取り組み ―「ことばの学び」を軸としたカリキュラム・イノベーションを通じて―
- ・児童一人一人の意欲を引き出す授業づくり ―「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を通して―
- ・ICTを活用した授業づくりを促す支援のあり方 ―教師の個人アンラーニングに着目して―
- ・算数科の授業づくりを通じた教師の職能成長 ―教師の関わり合いを視点として―
- ・知的障害教育における各教科等を合わせた指導のあり方 ―各教科等の内容の取扱いや学習評価に着目して―
- ・これからの専門学科(商業学科)における学校組織マネジメントの在り方について
- ―共通理解や合意形成を図りながら、教職員が生き生きとして働ける組織づくりを目指して―



中間報告会でのポスター発表。1年次と2年次で各2回の報告会を行います。院生たちは自分たちの実習校での実践内容を生かした研究成果を発表します。



通常の授業や合同省察会の中でも議論をするいろいろな場面で用意されています。互いの考えを深め合う貴重な機会となります。

10. 教職大学院進学の特長

● 学部新卒学生

◆ 名簿登載期間の2年延長

学部4年次に教員採用試験に合格した人が教職大学院に進学する場合、採用候補者名簿への登載期間が2年間延長される自治体もあります(例：岡山県、岡山市)。これは学部卒業後すぐに教員にならずに教職大学院で学ぶことの意義が評価されているからです。

◆ 教員採用試験の

一部試験免除・特別選考/初任者研修の一部免除

自治体によっては、教員採用試験において教職大学院生のみを対象とする選抜をおこなっているところや、教職大学院修了者への初任者研修が一部免除されるところもあります。

◆ 教員採用試験の対策

教員採用試験は教職大学院生としての価値観を発揮する重要な関門なので、教員が特に種々の指導をおこなっています。

● 現職教員学生

◆ 岡山大学教職大学院ラーニングポイント制

岡山大学教職大学院では、現職教員を対象とする研修講座やセミナー等での学修を教職大学院の授業科目の履修とみなして単位を付与する制度を設けています。これにより、教職大学院を1年で修了することも可能となります。

● 学部新卒学生+現職教員学生

◆ 専修免許状の取得

1種免許状を取得している場合は所定の単位を取得し、課程を修了すると「専修免許状」を取得できます。ただし、「特別支援学校教諭専修免許状」は、取得できません。基礎免許のみ専修免許状を取得できます。

◆ 修了後も続くネットワーク

教職大学院にはさまざまな学歴・教職経験の学生が、また、学校長や教育委員会等での経験を有する実務家教員、教科教育や学校に関する専門的知見を有する研究者教員がいます。授業や院生室での「学び合い」や「関わり合い」を通して、修了後も続く貴重なネットワークがつけられます。

◆ 「学び続ける教師」の根幹

教師には、教職生活を通じて自らの資質能力の向上に取り組むセルフ・マネジメント力が必要です。教職大学院での学びを通して、自の前にある課題にとどまらず学校の教育活動を総合的に捉えたときに浮かび上がる本質的な課題を発見し、その解決に取り組むための資質能力を身につけることができます。

11. 修了生の進路状況(新卒院生のみ)

(入学年度)	小学校	中学校	高校	中学・高校	特別支援	盲学校	その他
平成30年度	11	12	4	1	1	0	3
令和元年度	5	8	7	1	0	0	0
令和2年度	11	8	10	2	1	0	0

「教育の力」とは何だろう

私たち教育科学専攻は、その解を、常に問い続けています。学校教育だけでなく、あらゆる場所、あらゆる時、あらゆる人に教育は存在し、人の変容をもたらします。人と人との相互作用には、必ず何らかの「教育」が存在すると言えるかもしれません。教育科学専攻は、教育を開拓的に広く捉え、教育の可能性を拡げることを目指す新しい修士課程です。

社会的包摂と教育、コミュニティと教育、学校での新しい教育の模索、生涯教育、グローバルな教育格差と教育支援、全ての人のための創造性教育、各種学問分野の専門的知見の追究と教育との融合、人の幸福と教育。私たちは、教育に関わる事象を広く、柔軟に捉えて「教育の力」を探っています。そのために、専門性や属性の異なる多様な学生や大学教員が、ダイナミックに意見を交わし、協働し、プロジェクトを通じて教育科学を追究しています。

他の研究科ではありえない程多様な専門家がすぐ側にいるという教育学研究科の特長を活かして、あなたの可能性を上げてみませんか？ 新しく開発した充実した学修プログラムと研究環境を準備して、あなたをお待ちしています。

あらゆる場所、あらゆる時、あらゆる人に「質の高い教育」を実現することは、世界で大きなうねりになっている、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)、特にGoal4を実現することでもあり、教育科学専攻修了生は貴重な人材として多方面で期待されています。次の時代の教育科学を、あなたと一緒に創りたい。それが私たちの願いです。



教育科学専攻の概要



1. 教育上の理念、目的

修士課程は、教育に関する様々な事象を教育科学として開拓的に広く捉え、そこに見いだされる課題を実証的・体系的に教授研究し、教育科学の発展に資するとともに、豊かな学識と高度な課題解決能力を備えた人材を養成することを目的としています。

2. 養成する人材像と課題解決の資質能力

修士課程は、グローバル化や少子高齢化等、社会に存在する課題に即応できる高度な課題解決能力を有し、高度な教育に関する専門知識が求められる教育関係の職場で活躍することができる実践人を養成します。

本課程は、人々の生き方や生活に関わる様々な事象が、国家間の垣根を越えて地球規模に拡大していくグローバル社会において、教育科学の知識や行動に基づく高度で専門的な教育を展開することにより、個人や社会を取り巻く諸環境を理論的・実践的に分析し、そこに存在する本質的な課題を明確にした上で、その課題を適切に解決していく資質能力の育成を目指します。この資質能力は、様々な事象について主体的に考え、多様な社会的・経済的・文化的な背景を有する他者との互換性を保持しながら、新しい価値を生み出していくことを可能とするものであり、「教育の力」を通じて、誰ひとり排除せず、人間としての尊厳が重んじられる共生社会の実現に貢献していく人材(世界で活躍できる「実践人」)に備えられることが必要であると考えています。



3. 修了要件とその内訳

修士課程の修了要件単位総数は34単位以上で、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件です。

研究科共通科目	大学院共通科目	プログラム専門科目	大学院共通科目(課題研究)	計
1単位	3単位	26単位	4単位	34単位

注) 大学院設置基準第14条を適用する現職教員等における授業科目(課題研究を除く)の履修方法については、研究科共通科目、大学院共通科目及びプログラム専門科目の科目区分にかかわらず、30単位以上履修することとします。

- ◎ 標準修業年限は2年とし、最長在学年限は4年とします。
- ◎ 履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて、14条適用、長期履修制度等、柔軟な対応を採ります。

4. 「教育職員免許状」の取得について

- ◎ 現在、1種免許状を所有していれば、必要な単位を修得することで、専修免許状を取得することもできます。
- ◎ 学部の授業を科目等履修生として履修することで、新規に免許を取得することも可能です。

5. 教育課程及び、カリキュラムの特色と構成

◆ 教育課程の特色

教育に関する人文・社会・自然科学的な事象を教育科学として開拓的に広く捉え、個人や社会に直面する様々な事象について実証的・体系的に研究し、そこに見出される課題を解決するとともに、その成果を教育現場や広く社会にアウトプットすることができる総合的な実践力の育成に有効な教育課程としています。

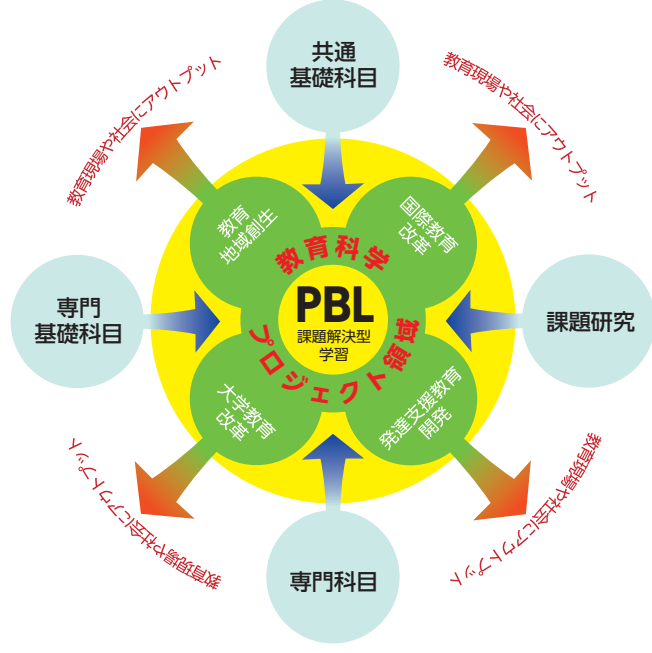
◆ カリキュラムの特色とその構成

カリキュラムでは、同一の授業内容を複数の教員が分担して担当するオムニバスや、複数の教員が同時に担当する協働(チームティーチング)の形式を採る授業科目が多く設定されています。

オムニバスによる授業は、一つの現象を多角的・多面的に捉える視点を提示する上で効果的な授業形式で、学生がそれぞれの観点から個別課題を把握・設定し、その総合的な理解や適切な解決に向けた考察を促すことを意図した授業科目において採られています。

協働による授業は、様々な問題の根底にある本質的な課題を発見・分析する上で有効な授業形式で、学生が教員と直接的・対話的に関わりながら、その課題解決に向けた取組を主体的に見出していくことを意図した授業科目において採られています。

■ 教育課程概念図



教育科学専攻の大きな特徴は、**PBL※**による学修です。大学院生の着想を活かしながら、教育科学プロジェクトをベースにPBLで学修を進めていきます。

また、各自が培ってきた専門性をさらに深めたい場合は、多様な教授陣による豊富な専門科目群が準備されています。

※ PBL (Project-Based Learning)

学問の体系性を踏まえつつも実践性を重んじたアクティブ・ラーニングであり、学習者自身が主体的に課題を設定し、その解決に向けた実際の取組に携わりながら、社会との関わり合いの中で学問諸領域の専門的な知識・技術や未知の状況に適切に対応できる思考力・判断力・表現力等の学びに向かう力を身につける上で効果的な課題解決型学習。



◆ PBLの目的

教育科学専攻のPBLでは、教育科学を活かして、大学院生が主体的に社会に存在する課題を見出してその解決を目指す営みを通じて学修します。ここでの「社会」は、学校内外を含む地域社会、発展途上国を含む国際社会、大学教育、企業、行政など多方面の場を想定しています。教育科学の知識や方法を修得し、実践的課題にそれらを応用して課題の解決に取り組むことができるように以下の4点を目的としています。

- ① 教育科学やチームプロジェクトに取り組むために必要な基礎的理論を修得する。
- ② 修得した理論をふまえ主体的に課題を設定して教育科学プロジェクトを遂行する力を修得する。
- ③ 現代的教育課題に関わる課題に取り組むため、最新の研究成果や社会情勢を理解する。
- ④ 学校と学校外との連携が重要となるこれからの時代を見据え、修得した理論や手法を社会の課題解決のために応用できる。

6. PBLとカリキュラム及び、その流れについて

◆ PBLの概要とカリキュラム

教育科学専攻では、学校教育以外でも教育が広く人と社会を支えていることを重視し、教育の新しい価値を提供し、世の中を支える教育科学の可能性を追究することを目指しています。そのため、教育科学専攻では、**修士論文の研究とプロジェクト基盤学修(Project-Based Learning : PBL)**を二つの柱として学修が構成されています。

PBLでは、専門の異なる大学院生がチームを組み、教育科学に関するプロジェクトを企画立案・実施し、実践を通して教育の可能性を拓けることを学びます。プロジェクトを構成する力は、社会人として大変重要な資質・能力であることはもちろん、次代を担う研究者としても必要な資質・能力です。

教育科学専攻のPBLは、教育科学PBLのコアを構成する「**教育科学の理念と今日的課題B**」「**教育科学プロジェクト研究概論**」「PBL I、II、III」と、それを支える**共通基礎科目**と**専門基礎科目**と**専門科目**から構成されています(図1)。

PBLのプロジェクトは、1年次の一年間の期間で実施します。その流れの概略を図1に示します。

1学期には、教育科学とは何か、教育を広く柔軟に捉えて各自の専門性を活かすために何が必要か、チームを構成するために必要なことは何か等を講義や議論や演習を通じて学びます(「教育科学プロジェクト研究概論」及び「PBL特論I」)。その過程で各自の問題意識を整理し、PBLでターゲットにするプロジェクトを絞り込みチームを構成します。また、専攻教員がオムニバスで多様な専門分野を紹介し、教員と自由に意見交換する授業(「教育科学の理念と今日的課題B」)を設けており、教育科学に対する様々な切り口のヒントを学ぶことができます。

2学期には、チームでプロジェクトの企画立案を進め、年間計画も策定し、必要に応じてフィールド調査、文献調査を進めます(「PBL I」及び必要に応じて「PBL特論II」)。問題から課題への移行と、プロジェクトがもたらす成果の価値についてしっかりと議論し、目標を定めます。以上を**PBL中間報告会**でチームで発表します。

3学期、4学期は、プロジェクトの実施と検証と評価を進めます(「PBL II、III」及び必要に応じて「PBL特論III、IV」)。ここでは、想定外の事象が起こる場合もあり、人的・物的各種外部資源も活用しながら、1週間ごとの週報を元にチームで主体的に前進させることが重要になります。

PBLの締めくくりとして、**PBL最終報告会**を設けています。教育科学を活かしたプロジェクトの成果報告や、各々が獲得した能力等を省察する機会を設けます。

■ 表1／専門基礎科目の内容

教育科学研究の方法	教育科学研究の方法 (研究・研修上の倫理、法規、行政)	教育科学の研究活動における研究倫理の理解を深める。教育行政の理解を深める。
	教育科学研究の方法 (調査法、実験法)	教育科学の研究活動には欠かせない、人の変容を測定する方法の基礎を学修する。心理尺度、行動データの扱い。
	教育科学研究の方法 (教育科学とICT)	教育科学とICTについて理解を深める。ネット社会に必要な技術、規制、倫理について理解する。
	教育科学研究の方法 (教育と地域・起業)	教育科学の成果をふまえて、地域社会や企業・団体での教育の役割を学ぶ。学童保育、スポーツ経営学、社会教育、フリースクール、企業、行政で活躍する方々から学ぶ。
教育実施展開概論	教育実地展開概論 (教育と地域創生)	地域社会と教育の関わり事例とその理念を学び、学校等が地域創生に果たす役割を理解する。芸術文化資源の活用を検証する。
	教育実地展開概論 (家庭生活と教育の多様性)	日本の家族の現状、機能とその変化を学修し、多様な環境における子どもに対する教育上の配慮と支援について、家庭・学校・地域社会の連携の視点から考える。
	教育実地展開概論 (ESD)	新学力観や教育の社会的役割を多面的に理解する視点をESDを通じて養う。
	教育実地展開概論 (国際教育比較)	日本を含め、国際バカロレア(IB)教育、APEC教育フレーム等、世界の最新の教育改革動向と先進国と途上国の教育課題の理解を深める。JICAを中心とした国際教育支援のポリシーや課題を学ぶ。

以上のPBLのコア部分と並行して、教育科学を支える**専門基礎科目**を設けています。表1に示すように、教育の可能性を拓けることを意識できる講義や教育科学を探究するために必要な基礎的な技能を学ぶ講義で構成されています。専門基礎科目は1、2学期に履修することで、教育科学PBLを進める手掛かりとなる視座や能力を獲得できるようになっています。

専門科目は、多様な専門分野が学べる多くの授業が準備されています。修士論文の研究や教育科学PBLを行うために必

要な各種専門領域を深く学ぶことができます。また、「PBL特論Ⅱ～Ⅳ」は、プロジェクト実施のための各種フィールド調査や実践に対応できるように、各プロジェクトと連動して随時開講されます。専門科目には専修免許に対応する授業も準備されており、必要に応じて履修することで専修免許も取得できます。ただし、専修免許取得に必要な要件や対応免許種等については確認が必要です。

また、2年次に開講される「PBL特論Ⅴ～Ⅷ」は、1年生が受講するPBL関係の授業の企画・実施に参画することで、授業者として知見を学ぶことができます。

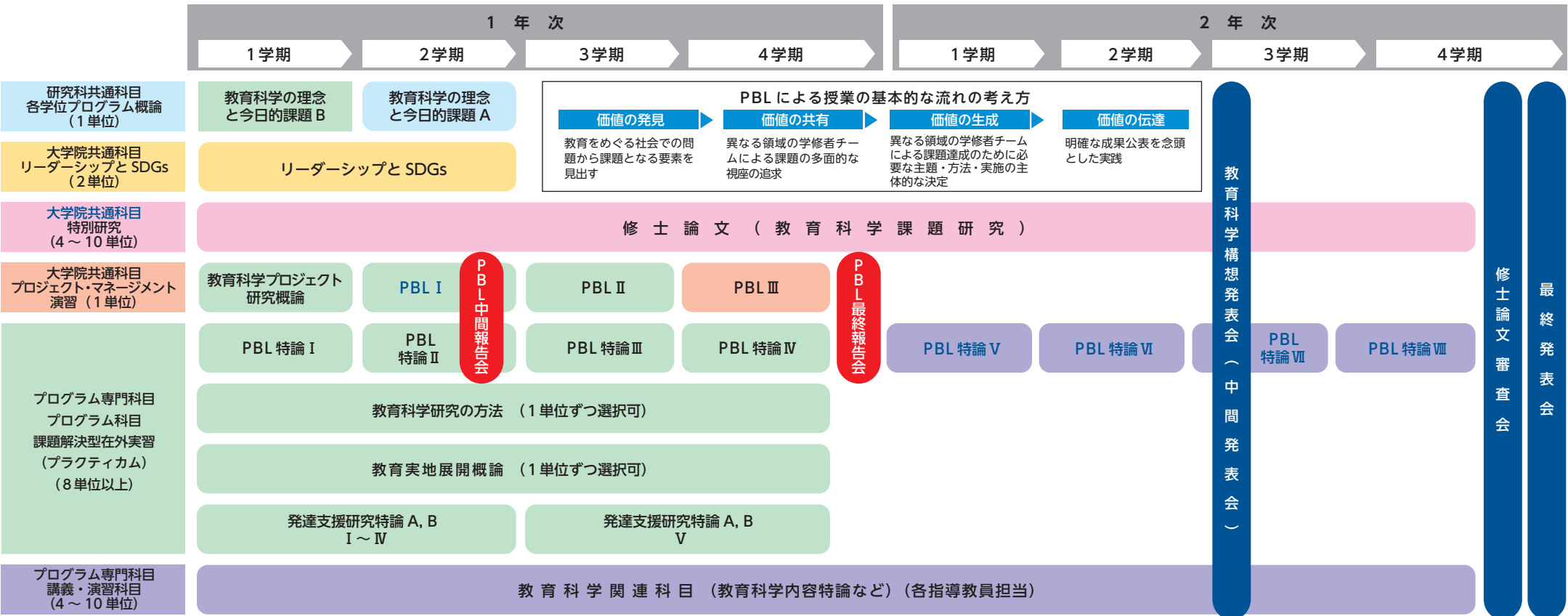
なお、特別支援教育、幼児教育、養護教育を中心に学修する大学院生は、共通基礎科目と以下の発達支援系専門基礎科目を履修することでPBLを構成することも可能です。上述のPBL関係授業を組み合わせることも可能です。

専修免許取得との関係もありますので、指導教員と相談のうえ履修形態を確定することになります。

● 発達支援系専門基礎科目

- 発達支援研究特論Ⅰ(発達基礎科学A、B)
- 発達支援研究特論Ⅱ(発達支援の方法論A、B)
- 発達支援研究特論Ⅲ(幼児教育学A、B)
- 発達支援研究特論Ⅲ(特別支援教育学A、B)
- 発達支援研究特論Ⅲ(養護実践学A、B)
- 発達支援研究特論Ⅳ(保育内容学A、B)
- 発達支援研究特論Ⅳ(特別支援実践学A、B)
- 発達支援研究特論Ⅳ(学校保健医科学A、B)
- 発達支援研究特論Ⅴ(幼児教育実践研究A、B)
- 発達支援研究特論Ⅴ(特別支援教育実践研究A、B)
- 発達支援研究特論Ⅴ(養護教育実践研究A、B)

■ 図1／カリキュラム構造と学修・研究の流れ



7. 2023年度在校生へのインタビュー & 修了生の声

高田 水穂子

TAKATA Mihoko

2023年4月 修士課程入学



Q：岡山大学大学院に入られる前は何をされていたか？

倉敷市の公立中学校で中学校の技術・家庭科の教員をしていました。

Q：どうして岡山大学教育科学専攻を選ばれたのですか？

学校の中だけにとどまらず、自分が指導してきた中学生年代の生徒たちが、地域との連携によって自分の人生を考える学習プランを研究したいと考え、志願しました。現場で働いていた時に玉島の地域子育て支援センターの方々の協力により、コロナ禍以前から幼児の子育て中のお母さんと赤ちゃんを学校に招いて家庭科の保育領域の交流学習を行ってきました。生徒たちは地域の方々との学びにとっても刺激を受け、自分の未来の姿を考えることができました。地域と連携し、今度は高齢者の方々との学習プログラムが考えられないかと思い、この教育科学専攻科を選びました。

Q：PBLを受講してどうですか？

各国から留学された未来の教育を牽引する先生方とお互いの思いを議論したり、自分の得意分野を生かして新しい教育の取り組みを試してみたりすることは素晴らしいことだと感じています。何よりも今まで話す機会の少なかった大学院生や他国からの留学生の方々など、様々な立場の仲間と、教育科学に関連する新たな課題を明確にしていくことは何物にも代え難い経験だと思います。日本の教育の当たり前の枠組みを超えた良い教育の方向性を導く可能性があるように思います。

Q：どのような研究を予定していますか？

中学校の技術・家庭科の新しい学習指導要領では、高齢者について以前よりも詳しく学習することが示されていますが、指導を模索していく中で中学生にとっての高齢期の学びの難しさを感じる事が度々ありました。大切な学びのカテゴリーであるにもかかわらず自分のこととしてとらえにくい側面が多々あり、何かいい方法はないかと考えていました。また自分にとって大切な家族が高齢期に入った姿を目の当たりにし、生徒にとって自分に来るべき高齢期の家族や高齢期を迎えた自分の暮らしをライフプランの中で意識しておくための学習方法を研究したいと考えています。

Q：岡山大学修了後、将来のキャリアは？

今まで一緒に研究をしてきた中学校の家庭科の先生と連携を取りながら現場で学習が進められるようにできたらと考えています。今後どのような形で地域連携をしていったらいいかなど具体的な方法を模索し始めたところです。

Q：最後に、一言、お願いします。

新しい学び方を意欲ある仲間と共に学習する楽しさは、格別です。キャリアを積んだからこそ考えて学びなおしたい気持ちを実現してみてもどうか。

大蔵 蓮

OKURA Ren

2021年4月 修士課程入学



Q：岡山大学に入られる前は何をされていたか？

地元の大学を卒業して保育士免許と幼稚園教諭一種免許状を取得し、大学院入学後一年間休学をして、幼稚園で4歳児の担任をしていました。

Q：どうして岡山大学教育科学専攻を選ばれたのですか？

教育を開拓的に捉え、科学することをテーマにしていることに魅力を感じたからです。今の教育の課題に向き合い、これからの教育はどうあるべきなのか、教育の意義から問い直すことができると感じ、自身の学びに最適な場であると考え、入学を決めました。

Q：大学院の授業を受講してどうですか？

どの授業も単に知識を入れるのではなく、広い視野を持って一つのテーマをじっくり考えることができます。幅広い情報を整理して、批判的に捉えていく思考が鍛えられると同時に、年齢も背景も多様な方々と議論することで思考を拓ける面白さを感じています。

Q：どのような研究をしていますか？

学習の最後に確実に位置付けられている「振り返り」の活動は、幼児期においても重要であると考え、その場面における保育者の援助について研究しています。日々の遊びを振り返る機会となり、自分の遊びや思いを発表する場であることから、メタ認知や論理的な思考が育まれるだろう、そのためには保育者がどう援助していけばよいのかを明らかにしたいと研究を進めています。

Q：岡山大学修了後、将来のキャリアは？

自身の保育観と近い園に就職し、保育経験を積む予定です。岡山大学大学院で培った力を生かして、園経営のことも学びたいとも将来的には思っています。

Q：最後に、一言、お願いします。

教育を見る目が拓がる実感がしています。学びたいと思ったときに学ぶこと、学べることの貴重さを感じながらあと一年大事に過ごしたいと思います。

韓 笑

HAN Xiao

2021年3月 修士課程修了



Q：岡山大学教育科学専攻に入られた理由（きっかけ）は何ですか？

日本に来る前は中国の地元の高校で英語の教師として勤めていました。大学の専攻は英語学でしたが、実際に先生になる時、教育についての知識が浅いと思い、教育に関することをもっと勉強したいという気持ちが芽生えました。教育の中で、特に言語教育は様々な人と出会い、交流し、相手の考え方について考えて理解しながら行動することが重要ですので、岡山大学教育科学専攻では様々な分野を研究している方と一緒に勉強出来る機会があると思い、入学を決めました。

Q：教育科学専攻での日々はいかがでしたか？

教育科学専攻での日々は、私にとってすごく充実していて、緊張もしましたが、素敵な日々でした。日本の大学で勉強した経験がないので、最初の頃は授業でもすごく緊張半分、楽しみ半分でした。高い専門知識を持つ先生たちや色々な考え方を持っている院生たちのおかげで、段々慣れました。そして、PBLのプロジェクトと自分の研究の両立が出来るように色々な工夫をして、自分の専門性も生かしてチームへの貢献が出来ました。PBLを通して大学院の様々な先生、院生、プロジェクトを行うために訪れた学校の先生や生徒達と出会って、自分の研究にも色々な協力を頂きました。多様性と専門性の交流の中で勉強しつつ、この経験は今後の社会生活にとって重要なことになっています。

Q：教育科学専攻での学びは、今のお仕事に役立っていますか？

教育科学専攻でPBLを通して学んだ「多様性・多文化的な多文化共生」のことを中心にして、日本での職場もそうですし、他の場面でもそうですが、様々な考えや意見を交換してからより良い方向に進んで行きます。私の今の仕事の内容は教育との関わりがありませんが、この点を把握すると、仕事をより円滑に進められると思います。

Q：教育科学専攻への進学を考えている方へ、一言、お願いします。

岡山大学教育科学専攻で勉強することは想像していたより挑戦がありましたが、その代わりに成果を出せた時の喜びは忘れられませんでした。ここは挑戦と機会と楽しみが共存する場所です。将来どこに居ても、何をしても、この貴重な経験をずっと生かされますから、またさらにチャレンジしましょう。

ダムバ エンフザヤ

DAMBA Enkhzaya

2022年3月 修士課程修了



Q：岡山大学に入られる前は何をされていたか？

モンゴルの学校で小・中学生に日本語を教えていました。2018年6月から異文化交流活動のため、岡山理科大学に数ヶ月在籍し、その後岡山大学のプレーマスターコースで1年間研究の基礎を学びました。

Q：どうして岡山大学教育科学専攻を選ばれたのですか？

多様な専門性で、社会における課題を特定し、教育を通じてそれを解決する方法についてチームで探るプロジェクト基盤学習が興味深かったからです。また、岡山大学の特別支援教育講座では、障害のある子供の教育のみならず、福祉、医療といった学際的な専門知識を学べるのも理由です。

Q：PBLを受講してどうですか？

現在、博物館を一般の人々や特に障害のある人にとって価値ある存在にする取り組みについて探求しています。自分の専門領域と違った課題でも、他の専門知識や利用者の観点から取り組むため、多様な発想が有意義で効果的だと考えています。国籍が自分と異なっているだけでなく、多様な専門領域のメンバーで活動することで、それなりに知識が広がっているのを感じています。

Q：どのような研究をしていますか？

「モンゴルの小中学校における特別支援教育コーディネーターの導入」というテーマで研究を進めています。障害のある子供も、通常教育から排除されることなく、平等に教育を受ける権利を持っています。モンゴルでも障害のある子供がより良い教育を受けられるようになるために、社会全体で支援する仕組みが不可欠です。そこで、日本の特別支援教育コーディネーターのような取り組みを参考に、モンゴル型コーディネーターの導入を提案することを予定しています。

Q：岡山大学修了後、将来のキャリアは？

岡山大学で培った知識を母国で活かし、障害のある人を受け入れる社会作りに尽力したいです。研究を継続し、障害の早期発見のためにモンゴル版の知能検査等の研究ができたらと考えています。

Q：最後に、一言、お願いします。

日本への留学を考えている皆さんは是非挑戦してみてください。異文化体験は当然ですが、多様な学生との共同学習で新しい知見を見出すチャンスです。



8. 2022年度 / PBLチームによるプロジェクト内容

- キャリア教育
「主体的な生き方を目指すための自己理解についての検討と実践 ―自分のなかの『きじゅん』をめぐる―」
- 科学的根拠を基にした教育
「岡山支縁づくりプロジェクト」
- A better life
「感染症と生活 ―未来のためのしなやかな紐帯の構築―」
- Enjoy Ground
「創造性を発揮する遊び場」
- Hands-on Experience Classes
「ラオスにおける体験型学習の実践と検証 ―ベンガラ染めワークショップを通して―」
- 牧山地域活性化プロジェクト2022
「幼少期の『擬似的ふるさと』体験が地域文化の継承に及ぼす影響」
- コミュニケーション
「組織内インフォーマルコミュニケーションが果たす役割の追究」

9. 2022年度 修士論文

第4期生の2年間にわたる教育科学の学修成果として
修士論文の要旨を右の報告書に掲載しています。
多様な専門分野が集まる教育科学専攻らしい
多様な研究に取り組んだ様子がわかります。

報告書には、
2022年度の各PBLチームによるプロジェクトの概要も掲載しています。



● PBLチームによるプロジェクトや修士論文の要旨はQRコードからご覧いただけます。

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoukagaku/wordpress/do/>



10. 修了生の主な進路先

● 企業

(株)ベネッセコーポレーション、(株)ベルテックス、菅公学生服
(株)、シミックヘルスケア・インスティテュート(株)、マックスバリュ西
日本(株)、(有)コモエスタ、西南財経大学天府学院、似鳥(中国)
投資有限公司、天満屋ストア(株)、新来島サノヤス造船(株) 等

● 大学・研究機関

岡山理科大学
進学:岡山大学大学院、九州大学大学院、兵庫教育大学大学
院連合学校教育学研究科、広島大学大学院、名古屋大
学大学院、中山大学大学院(中国) 等

● 教育機関(大学以外)

岡山市立吉備中学校、津山市立北陵中学校、佐用町立上津中
学校、横浜市西寺尾第二小学校、宝塚市高司小学校、出雲市
立平田小学校、安芸市立広瀬小学校、有田市立港小学校、岡
山県立早島支援学校、岡山市立牧石小学校、私立倉敷高等学
校、私立伊万里幼稚園(認定こども園)、京都教育大学附属幼
稚園 等

● 公務員

岡山県警察、岡山県庁 等

11. 修士課程 教育科学専攻への要望、期待 (要望書等の抜粋)

株式会社 山陽新聞社

岡山大学大学院教育学研究科が進められている改組につ
きましては、社会が抱える様々な課題に教育を通じて関わるこ
のできる高度な問題解決力を有する人材育成を目指すものと
認識しております。現在、複雑化・多様化している学校教育に
関する専門知識を持つだけでなく、地域社会への強い関心と
様々な課題に対応できる資質と能力を有した人材は、多くの企
業にとって求められる人材であるといえます。

岡山大学大学院教育学研究科修士課程が予定される教育
科学プロジェクトによる人材育成は、地域が求める人材像と合
致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく地方創
生の観点からも、改組を早期に推進するとともにさらに連携を
強化していただくよう要望いたします。

公益財団法人 福武教育文化振興財団

予定される教育科学プロジェクトによる人材育成は、まさに
地域社会や私ども公共性を有する組織・団体が求める人材像
と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく、
教育・文化を通じた地域創生の観点からも、大変有益なものと
認識しております。

つきましては、改組を早期に推進するとともにさらに連携を
強化していただくよう要望いたします。

一般社団法人 カンコー教育ソリューション研究協議会

カンコー教育ソリューション研究協議会は、学校とともに夢
と学びを育み、学校のパートナーとして教育現場の課題解決を
サポートすることを理念として事業を推進しているところです。

岡山大学大学院教育学研究科修士課程が予定される教育
科学プロジェクトは、まさに私どもが目指す事業理念と合致し
ており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく、教育を通
じた地域創生の観点からも、改組及び連携を早期に推進して
いただくよう要望いたします。

(特非) 日本放課後児童指導員協会

放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の指導員が
高度な専門性を修得できるプログラムや講座等を岡山大学大
学院教育学研究科に設けていただくことを希望いたします。ど
うぞよろしくお願いいたします。

全国公立小中学校事務職員研究会

一定の経験年数を有する事務職員には、校長の学校経営を
理解し、適切に支えていく役割が期待されることから、大学レ
ベルの高度な研修を受ける機会が必要であると考えます。

つきましては、事務職員が教育に関する学修を主体的・自主
的に進めていくことのできる教育内容を有するプログラム等を
岡山大学大学院教育学研究科に設けていただくことを希望い
たします。